

NSG
GROUP

NSG グループ

2020年3月期第3四半期決算報告

(2019年4月1日～ 2019年12月31日)

日本板硝子株式会社
2020年1月30日

諸岡 賢一

代表執行役副社長兼CFO

クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼COO

イアン・スミス

執行役 グループファイナンス担当ディレクター

目次



1. 2020年3月期第3四半期 決算概要
2. 2020年3月期第3四半期 事業状況
3. 2020年3月期連結業績予想の修正
4. 主な施策の進捗
5. まとめ

2020年3月期第3四半期 決算ハイライト



欧州を中心に、自動車生産の減少と建築用ガラスの供給増により市場環境がさらに悪化

売上高	4,258億円 (前年同期比△7%)	為替変動の影響に加え、主要地域の市場環境悪化により減少 為替影響を除けば前年同期比3%減少
無形資産償却前 営業利益	194億円 (前年同期比△29%)	自動車用は欧州の数量減が継続、Q3は日本も悪化 建築用は欧州を中心に市場環境のさらなる悪化と稼働率の低下 一方で太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調
親会社所有者に 帰属する当期利益	12億円 (前年同期比△88%)	営業利益の減少に加え、前期の一過性の持分法投資利益が なくなった影響
フリー・キャッシュ・フロー	△493億円	利益減に加え、戦略投資の進捗と運転資本の変動等の影響

2020年3月期第3四半期の決算ハイライトです。

当第3四半期においては、欧州を中心に自動車生産台数の減少と建築用ガラスの供給増により、市場環境のさらなる悪化が見られました。

売上高は、為替変動の影響に加え、主要地域の市場環境悪化等の影響により、前年同期比7%減の4,258億円となりました。為替換算の影響を除くと、3%の減収です。

無形資産償却前営業利益は、前年同期比29%減の194億円となりました。

自動車用ガラス事業は、欧州で自動車生産台数の減少が継続していることに加え、第3四半期には日本における消費税率引き上げに伴う需要の冷え込みの影響を受けました。建築用ガラス事業は、欧州を中心に市場環境のさらなる悪化と稼働率の低下により、減益となりました。一方、太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調に推移しています。

親会社所有者に帰属する当期利益は12億円となりました。前年同期より大きく減っていますが、これは営業利益の減少に加え、前年同期に持分法投資利益として計上した一過性の利益が当期にはなかったことが大きな要因です。

フリー・キャッシュ・フローについては、利益の減少に加え、戦略投資の進捗と運転資本の変動等により、493億円のマイナスとなりました。

連結損益計算書



(億円)	2019年3月期 4月-12月期	2020年3月期 4月-12月期	増減
売上高	4,595	4,258	(337)
無形資産償却前営業利益	272	194	(78)
償却費 *	(15)	(14)	1
営業利益	257	180	(77)
個別開示項目	(33)	(44)	(11)
金融費用（純額）	(102)	(95)	7
持分法による投資損益	49	12	(37)
税引前利益	171	53	(118)
当期利益	114	19	(95)
親会社の所有者に帰属する当期利益	105	12	(93)
EBITDA	467	432	(35)

*: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

2020年1月30日 | 2020年3月期第3四半期決算報告

6

連結損益計算書になります。

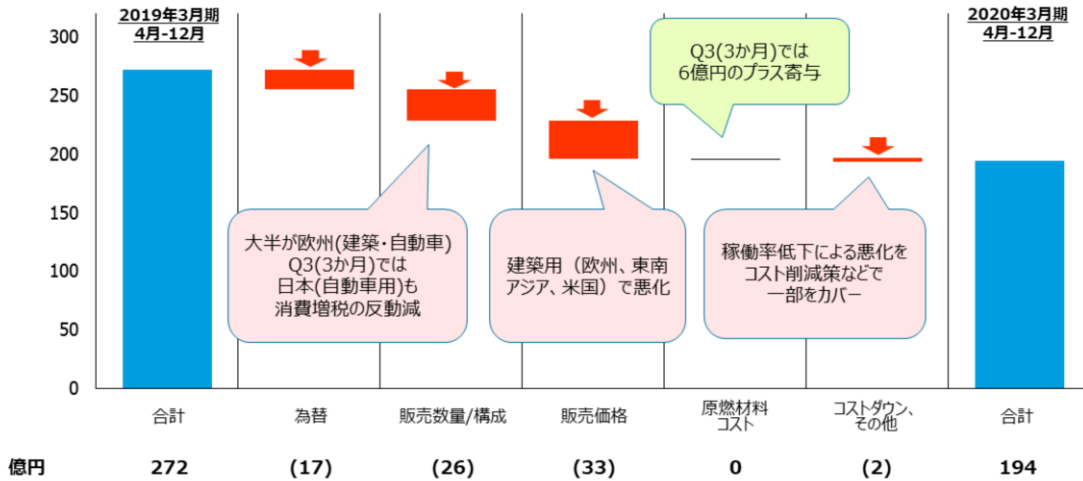
売上高、営業利益および親会社の所有者に帰属する当期利益については、スライド5ページの通りです。

個別開示項目は、44億円のマイナスとなりました。第3四半期の3ヶ月間では、主に欧州の自動車用ガラス事業におけるリストラクチャリング費用を計上しています。個別開示項目の詳細については、補足資料の25ページに記載されています。

次にネット金融費用については、当期から適用したIFRS16号「リース」に伴って利息費用が増加したものの、全体として、前年同期比7億円減少しました。

営業利益差異分析 (無形資産償却前)

為替変動と市場環境悪化に伴う数量減、および第3四半期での急速な価格下落により減益



2020年1月30日 | 2020年3月期第3四半期決算報告

無形資産償却前営業利益について、前年同期との差異について説明しています。

為替換算により前年同期に比べて17億円のマイナスになっています。

「販売数量/構成」は、大半が欧州の建築用、自動車用ガラス事業での販売数量減少によるものです。加えて第3四半期には日本における消費税率引き上げに伴う自動車販売冷え込みの影響を受けました。

「販売価格」は、建築用ガラス事業の欧州・東南アジア・米国などでガラスの供給が増えたことにより悪化しました。

「原燃材料コスト」は、第3四半期に入ってから欧州を中心にエネルギー価格の下落もあり、約6億円改善しました。

「コストダウン、その他」は、建築用ガラス事業の欧州を中心とする稼働率の低下などの影響が、これまでのコスト削減策等によるプラス効果を上回り、全体として2億円のマイナスとなっています。

主要財務指標 (KPI)



ネット借入はIFRS16号の適用や戦略投資、運転資本などにより増加

	2018年12月末	2019年12月末	2019年3月末
ネット借入 (億円)	3,368	4,114 ^{*1}	3,177
ネット借入/EBITDA	5.3x	6.4x	4.9x
ネット借入/純資産比率	2.6x	3.5x	2.4x
自己資本比率	15.9%	12.9%	16.2%
	2019年3月期 4月-12月期	2020年3月期 4月-12月期	2019年3月期
営業利益率 ^{*2}	5.9%	4.6%	6.3%

*1: IFRS16号適用による304億円の増加を含む

*2: 無形資産償却前営業利益

2020年1月30日 | 2020年3月期第3四半期決算報告

8

主要財務指標の一覧になります。

「ネット借入」は、主にIFRS第16号「リース」の適用、戦略投資および運転資本の増加による影響を受け、前期末に対して937億円増加し、4,114億円となりました。

「ネット借入/EBITDA比率」は、「ネット借入」の増加による影響を受けました。

「自己資本比率」は、為替換算の影響やIFRS第16号の適用により、前期末の16.2%から12.9%へ減少しましたが、第2四半期末からは若干改善しています

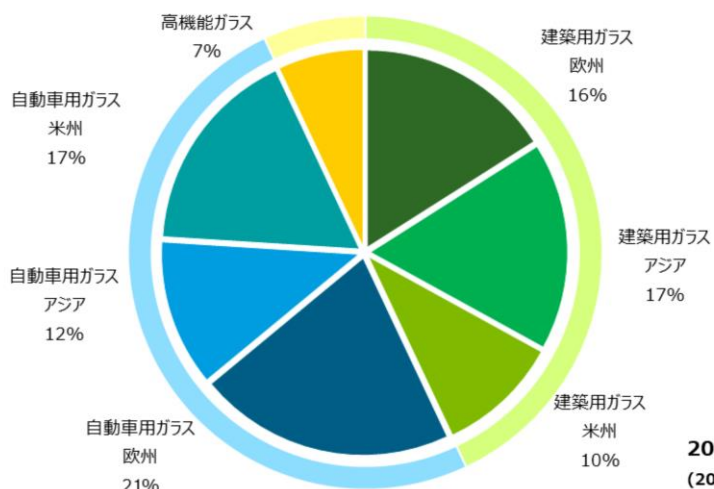
「営業利益率」は、前年同期と比較して残念ながら低下しています。

事業別売上高

グローバルに事業展開



4,258億円



2020年3月期 第3四半期
(2019年4月-12月)

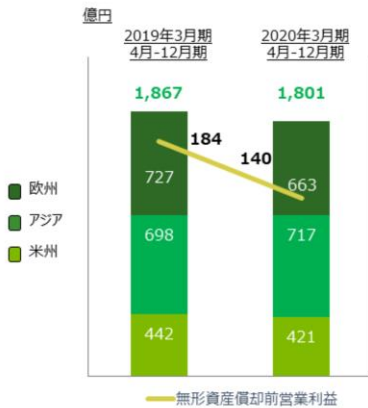
2020年1月30日 | 2020年3月期第3四半期決算報告

9

当社グループの事業セグメント毎の売上高の構成比を示しています。

建築用ガラス事業 前年同期比

為替変動と市場環境の悪化、稼働率低下の影響を受ける。太陽電池パネル用ガラスは堅調



売上: 主に為替影響、加えてQ3での市場環境悪化により減収
営業利益: 過半が欧州での減益

欧州 (減収・減益)

- 為替変動に加え、数量減で減収
ガラス供給増によりQ3では価格下落も加わる
- 売上減と稼働率低下で減益幅が拡大

アジア (増収・減益)

- 太陽電池パネル用ガラスの販売数量が伸長し増収
- 日本は増益だが、東南アジアは供給増による一般建築用ガラスの市場環境悪化で減益

米州 (減収・減益)

- 北米は太陽電池パネル用ガラスの出荷は増加。一方で一般建築用ガラスの供給増による価格下落あり、売上は横ばいを維持したが減益
- 南米は不透明な経済環境下でも現地通貨ベースでの業績は改善

当社グループの建築用ガラス事業の業績についてご説明いたします。

売上高は前年同期比4%減の1,801億円となっていますが、欧州や南米の通貨安の影響に加えて、第3四半期の市場環境の悪化で減収となりました。営業利益は前年同期比44億円減の140億円となりました。過半が欧州での減益です。

欧州では、販売数量が減少したことに加えて、ユーロ安および域内でのガラス供給の増加に伴い、第3四半期において販売価格が大幅に下落した影響を受け、減収となりました。この売上減の影響に加え、稼働率の低下による影響が加わり、減益となりました。

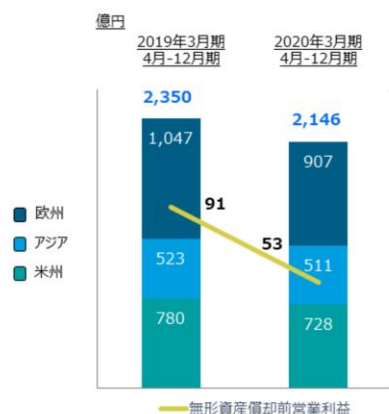
アジアでは、太陽電池パネル用ガラスの販売数量が伸びて増収となりました。一方、東南アジアで供給増を背景とした一般建築用ガラスの価格下落の影響を受け、全体では減益となりましたが、日本では増益となりました。

北米でも太陽電池パネル用ガラスは堅調ですが、一般建築用ガラスの市場でガラス供給が増加したことで、価格が下落し、減益となりました。

南米では、不透明な経済環境下にある中でも、現地通貨ベースの業績は堅調に推移しています。

自動車用ガラス事業 前年同期比

欧州での自動車生産減少の影響を大きく受ける



売上：為替影響に加え、主に欧州での売上減により減収

営業利益：大半が欧州の減益だが、Q3は日本も減益

欧州（減収・減益）

- 数量減で減収減益。Q3はカーメーカーの在庫調整による自動車生産減少の影響あり

アジア（減収・減益）

- 日本は上期の出荷堅調な一方、消費税率引き上げ後は減収
営業利益は素板コスト増加に加えてQ3の数量減により減益

米州（減収・増益）

- 北米は微減収だが、生産効率改善により増益
- 南米の利益は前年並みで推移。ブラジルの業績は改善

次に自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業全体では、為替換算の影響に加え、主に欧州での自動車生産の減少による影響を受け、売上高は前年同期比9%減の2,146億円、利益は前年同期比38億円減の53億円になりました。

欧州は、販売数量が減少し、減収減益となりました。域内の自動車販売は安定的ですが、第3四半期に入り欧州カーメーカーが在庫調整を進めていることなどにより、自動車生産台数が減少しました。

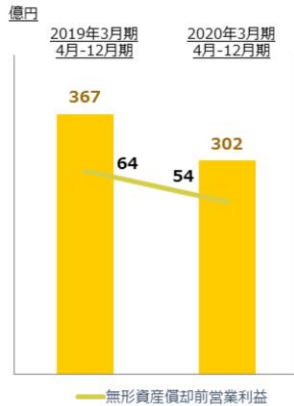
アジアは、前年同期比減収減益となりました。日本では上期までは消費税率引き上げ前の需要もあって出荷が堅調でしたが、消費税率引き上げ後は減収となりました。利益は素板コストが増えたことに加えて、第3四半期に数量が減少したことで減益となりました。

米州は、建築用ガラス事業と同様に、為替換算の影響を受けました。売上高は、アルゼンチン・ペソの下落などにより、前年同期比で7%の減収となりましたが、為替換算の影響を除くと、2%の減少にとどまっています。

北米では生産効率改善により、増益となりました。南米の業績は前年並みの水準で推移しています。ブラジルの業績は改善しています。

高機能ガラス事業 前年同期比

レンズ、グラスコードの需要減の一方、ファインガラスは一層の利益改善



高機能ガラス事業 (減収・減益)

- ファインガラスは、継続的なコスト削減や売上構成改善により増益
- プリンター用レンズおよびグラスコードは、需要軟化の影響を受け減収減益
- バッテリーセパレーターの業績は安定

最後に高機能ガラス事業です。

高機能ガラス事業全体では、レンズやグラスコードなど一部の事業では厳しい市場環境であった一方、ファインガラス事業では一層の利益改善が見られました。売上は、前年同期比65億円減収の302億円、利益は前年同期比10億円減の54億円になりました。

セグメント別の状況ですが、ファインガラス事業は、継続的に続けてきましたコスト削減や売上構成の改善が利益に反映しています。

プリンター用レンズおよびエンジンのタイミングベルトに使用されるグラスコードは減収減益となりました。グラスコードについては欧州や中国における自動車生産減少の影響を受けました。

バッテリーセパレーターの業績は安定的に推移しています。

連結業績予想の修正



Q3に入りさらに悪化した事業環境がQ4も続くことを想定し、予想を修正

(億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 通期見通し (当初)	2020年3月期 通期見通し (Q2決算時)	2020年3月期 通期見通し (今回修正)	差異
売上高	6,128	6,200	5,700	5,600	(100)
無形資産償却前営業利益	388	370	310	230	(80)
償却費*	(19)	(20)	(20)	(20)	-
営業利益	369	350	290	210	(80)
個別開示項目	(71)	(60)	(70)	(70)	-
金融費用(純額)	(133)	(140)	(140)	(130)	10
持分法による投資損益	62	40	20	20	-
税引前利益	227	190	100	30	(70)
当期利益	144	120	40	(20)	(60)
親会社の所有者に帰属する当期利益	133	110	30	(30)	(60)

*: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

2020年1月30日 | 2020年3月期第3四半期決算報告

13

2020年3月期の連結業績予想になります。

ここまで説明しましたとおり、この第3四半期は市場環境のさらなる悪化の影響を受けており、今後期末にかけても同様の減速傾向が続く見通しであることをふまえ、誠に遺憾ながら再度、通期業績予想を修正しております。

修正後の2020年3月期の業績予想ですが、第2四半期決算時に発表しました見通しと比較して、売上高は、100億円減の5,600億円、無形資産償却前の営業利益は、80億円減の230億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は60億円減のマイナス30億円となっております。

各事業の見通しは次のページでご説明します。

連結業績予想の修正



欧州とアジアでの市場環境のさらなる悪化、稼働率低下が要因

通期営業利益（償却前）予想

第2四半期決算時点からの減益幅（80億円）の主な要因

事業	減益幅 (億円)	内容
建築用ガラス	▲30	<ul style="list-style-type: none">供給増による欧州、東南アジアでの市場環境悪化、稼働率低下
自動車用ガラス	▲40	<ul style="list-style-type: none">半分が欧州、次いで日本欧州カーメーカーの生産台数減による数量減と稼働率低下日本での消費増税以降の急速な数量減
高機能ガラス	▲10	<ul style="list-style-type: none">欧州、中国を中心とした自動車生産の減少がガラスコードの需要に影響

2020年1月30日 | 2020年3月期第3四半期決算報告

14

事業別に前回の業績予想からの減益要因について説明します。

営業利益を80億円修正したうち建築用ガラス事業での要因は30億円です。ガラス供給が増加したことにより、特に欧州と東南アジアにおいて販売数量・価格に下落圧力がかかり、これにより設備稼働率も低下しています。

次に、自動車用ガラス事業での要因は40億円です。そのうち欧州が約半分、次いで日本となります。欧州と日本での市場環境の悪化を反映しています。欧州カーメーカーの自動車生産台数の減少による数量減と稼働率低下、日本での消費増税以降の急速な数量減の影響が今年度を通じて続くものと見ております。

残り10億円が高機能ガラス事業での要因です。欧州・中国を中心とした自動車生産の減少がガラスコードの需要減に影響するとみています。

主な施策の進捗 ①収益改善施策



コスト削減対策も含め、抜本的な収益改善施策は引き続き検討、実施

- 欧州・自動車用ガラス事業: イタリアを中心に工場人員の削減、設備集約
- 欧州・建築用ガラス事業: 窯のホットホールド、定期修繕の前倒し、長期化による供給削減を計画
- 日本・建築用ガラス事業: 加工拠点統廃合、加工ライン停止、人員削減、値上げなど、計画通り実施済。
来期に向けて、損益改善の積み上げに目途
- 北米・自動車用ガラス事業: 生産効率改善活動の効果が継続
- OCS（全社コスト削減活動）に加え、今期末に向けて、全社ベースで支出削減を実施中
- VA化推進、マーケティング機能の強化は引き続き実施中
- 来期以降の損益改善につながる追加施策も検討中
- 今後、個別開示項目費用の発生など、業績への大きな影響が見込まれる場合は、改めて公表

主要な収益改善施策の進捗についてご報告します。

事業損益の急激な悪化に伴いまず欧州の収益立て直しが急務です。欧州自動車用ガラス事業においては、イタリアを中心に工場人員の削減、設備集約に取り組んでおり一定の成果を出してきましたが、それをさらに強化してまいります。

欧州建築用ガラス事業においては、窯のホットホールド、定期修繕の前倒しや長期化により供給削減を計画しております。これらは短期での収益改善に直結するものではありませんが、需給バランスの適正化を図ることが最終的には収益改善に寄与します。欧州以外では、日本の建築用ガラス事業で、加工拠点統廃合や人員削減、値上げ活動を計画通り進めており、改善効果も積みあがってきています。事業環境は決して楽ではありませんが、自社努力により収益改善を図っていきます。北米の自動車用ガラス事業においては、生産効率改善の効果が継続して利益増に寄与しております。

全社的活動としては、従来から行っているOCS(operational cost saving)というコスト削減活動に加えて、期末に向けて支出の削減にも取り組んでいます。また、VA化は収益改善の重要施策であり、マーケティング部門の強化も含め引き続き注力しています。

一方、急激な変化に対応するべく、上述以外にも来期以降の損益改善につながる追加施策が必要と考え現在鋭意検討を進めています。また、今後個別開示項目費用の発生など、業績予想に大きな影響が見込まれる場合には、改めて公表いたします。

主な施策の進捗 ②成長への投資



来期以降の成長に寄与する戦略投資、新事業開発は継続的に取り組み

- 戦略投資プロジェクト（ソーラー、南米）は、予定通り進捗
 - 太陽電池パネル用ガラスの増産
 - ✓ ベトナムの第2フロートライン稼働
 - 1/19 火入れ完了、2月に生産開始予定
 - ✓ 北米は2021年3月期下期に稼働予定
 - 南米（アルゼンチン）の新フロートラインも建設は順調（最新の予定は2021年3月期下期稼働）
- BIC（ビジネス・イノベーション・センター）は複数のプロジェクトが順調に進行中



ベトナム工場の全景と火入れの様子

成長への取り組みについてです。

戦略投資プロジェクトとして、太陽電池パネル用ガラスの増産投資、新興市場である南米・アルゼンチンでのフロートライン新設の投資を進めております。

太陽電池パネル用ガラスについては、ベトナムの第2フロートラインは1月19日に火入れを完了し、2月にも生産開始予定です。北米のフロートラインは来年度下期に稼働予定です。

南米の新フロートラインも建設は順調で、最新の計画では来期度下期に稼働予定です。

さらに、BICでは新事業開発の加速に向けて、既に発表しているPicoGene(ピコジーン)も含めた複数のプロジェクトが順調に進行しております。

足元の業績が非常に厳しい状況ではありますが、将来の成長への取り組みは手を抜くことなく継続していきたいと考えております。

まとめ



2020年3月 第3四半期業績

- ・ 売上は、為替変動の影響に加え、主要地域の市場環境悪化により減収
- ・ 営業利益は、自動車用では欧州の数量減が継続、Q3は日本も悪化
建築用では欧州を中心に市場環境のさらなる悪化と稼働率の低下
- ・ 一方で太陽電池パネルの出荷は堅調

通期見通し:Q3に入りさらに悪化した事業環境がQ4も続くことを想定し、予想を修正

- ・ 建築用ガラス事業
 - ・ 供給増による欧州、東南アジアでの市場環境悪化、稼働率低下
- ・ 自動車用ガラス事業
 - ・ 欧州カーメーカーの生産台数減による数量減と稼働率低下と、日本のQ3以降の急速な数量減
- ・ 高機能ガラス事業
 - ・ 欧州、中国を中心とした自動車生産の減少がガラスコードの需要に影響
- ・ 戦略投資を除く通常のフリー・キャッシュ・フローはプラスを目指す

収益改善策と成長分野への投資

- ・ コスト削減対策も含め、抜本的な収益改善施策は引き続き検討・実施
- ・ 来期以降の成長に寄与する戦略投資、新事業開発は継続的に取り組み

市場環境がさらに悪化したことにより、第3四半期は厳しい決算となりました。

この環境が今後も当面続く見通しであることを踏まえ、残念ながら今期の通期業績予想を再度下方修正いたしました。

なお、年度末に向け、戦略投資に伴う支出は増える見込みですが、戦略投資等を除いた通常のベースのフリー・キャッシュ・フローについては引き続きプラスになるように改善を目指してまいります。

環境の逆風はありますが、当社としては引き続き収益改善施策を着実に実行し、また成長に寄与する投資・新事業開発にも取り組みながら、しっかり今後の収益改善を図っていきたくと考えております。

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料



- 事業部門別・地域別売上高
- 事業部門別・地域別償却前営業利益
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー
- 個別開示項目
- 為替レート等
- 減価償却費・資本の支出・研究開発費

事業部門別・地域別売上高

2019年3月期第3四半期との比較



単位：億円	第3四半期（10月-12月：3ヶ月）			第3四半期累計（4月-12月：9ヶ月）		
	2019年3月期	2020年3月期	増減	2019年3月期	2020年3月期	増減
建築用ガラス事業	650	604	(46)	1,867	1,801	(66)
欧州	231	210	(21)	727	663	(64)
アジア	263	247	(16)	698	717	19
米州	156	147	(9)	442	421	(21)
自動車用ガラス事業	742	664	(78)	2,350	2,146	(204)
欧州	307	278	(29)	1,047	907	(140)
アジア	189	165	(24)	523	511	(12)
米州	246	221	(25)	780	728	(52)
高機能ガラス事業	117	100	(17)	367	302	(65)
欧州	17	16	(1)	58	51	(7)
アジア	96	81	(15)	297	240	(57)
米州	4	3	(1)	12	11	(1)
その他	5	4	(1)	11	9	(2)
合計	1,514	1,372	(142)	4,595	4,258	(337)

事業部門別・地域別 償却前営業利益*

2019年3月期第3四半期との比較

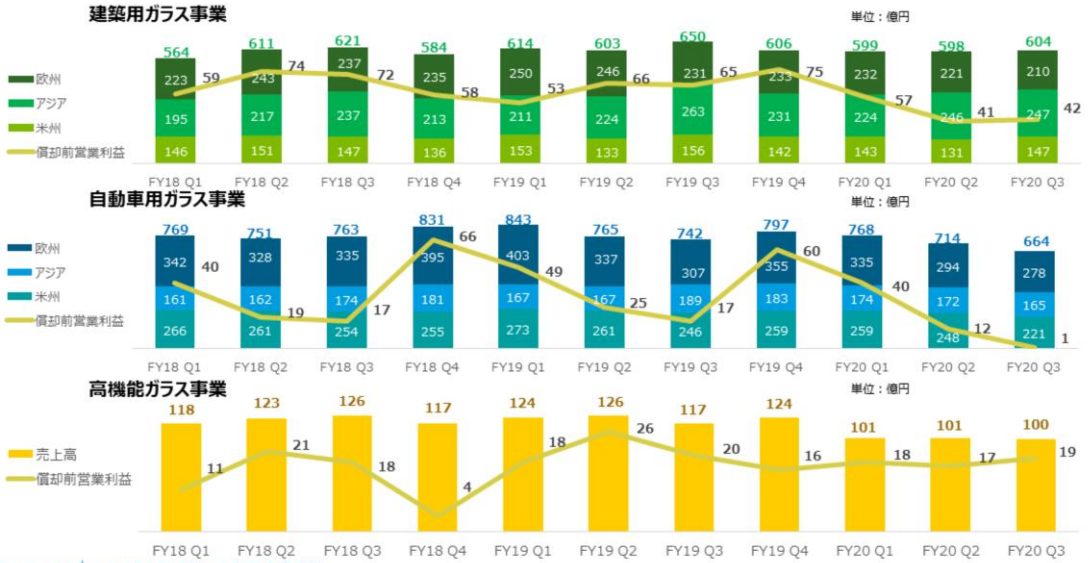


単位：億円	第3四半期（10月-12月：3ヶ月）			第3四半期累計（4月-12月：9ヶ月）		
	2019年3月期	2020年3月期	増減	2019年3月期	2020年3月期	増減
建築用ガラス事業	65	42	(23)	184	140	(44)
自動車用ガラス事業	17	1	(16)	91	53	(38)
高機能ガラス事業	20	19	(1)	64	54	(10)
その他	(18)	(26)	(8)	(67)	(53)	14
合計	84	36	(48)	272	194	(78)
欧州	30	9	(21)	125	66	(59)
アジア	54	37	(17)	144	110	(34)
米州	18	16	(2)	70	71	1
その他	(18)	(26)	(8)	(67)	(53)	14
合計	84	36	(48)	272	194	(78)

*：無形資産償却前営業利益

事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益*

四半期別推移



2020年1月30日 | 2020年3月期第3四半期決算報告

*: 無形資産償却前営業利益

連結貸借対照表



単位：億円

	2019年3月末	2019年12月末	増減
資産	7,619	8,092	473
非流動資産	5,163	5,622	459
のれん・無形資産	1,611	1,567	(44)
有形固定資産	2,415	2,955	540
その他	1,137	1,100	(37)
流動資産	2,456	2,470	14
現金及び現金同等物	524	459	(65)
その他	1,932	2,011	79
負債	6,294	6,929	635
流動負債	1,930	1,845	(85)
金融負債	422	594	172
その他	1,508	1,251	(257)
非流動負債	4,364	5,084	720
金融負債	3,293	3,988	695
その他	1,071	1,096	25
資本	1,325	1,163	(162)
親会社の所有に帰属する持分	1,238	1,043	(195)
非支配持分	87	120	33
負債及び資本	7,619	8,092	473

2020年1月30日 | 2020年3月期第3四半期決算報告

23

連結キャッシュ・フロー



単位：億円

	2019年3月期 4月-12月期	2020年3月期 4月-12月期	増減
当期利益	114	19	(95)
減価償却費	210	258	48
子会社売却益	-	(10)	(10)
持分法による投資利益	(49)	(12)	37
法人所得税支払額	(44)	(44)	-
その他	(17)	(26)	(9)
営業活動によるキャッシュ・フロー（運転資本の増減考慮前）	214	185	(29)
運転資本の増加	(186)	(231)	(45)
営業活動によるキャッシュ・フロー	28	(46)	(74)
有形固定資産の取得			
－戦略投資等	-	(289)	(289)
－その他	(193)	(161)	32
資産売却収入	3	22	19
その他	(21)	(19)	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	(211)	(447)	(236)
フリー・キャッシュ・フロー	(183)	(493)	(310)

2020年1月30日 | 2020年3月期第3四半期決算報告

24

個別開示項目



単位：億円

	2019年3月期 4月-12月期	2020年3月期 4月-12月期
子会社の売却による利益	-	10
事業閉鎖に伴う換算差額の実現益	7	-
リストラチャリング費用	(20)	(38)
設備休止に係る費用	(4)	(13)
有形固定資産等の減損損失及び減損損失戻入益	(1)	(1)
退職給付に係る負債の過去勤務費用	(14)	-
その他	(1)	(2)
	(33)	(44)

為替レート等



期中平均レート

	FY2018				FY2019				FY2020			見直し
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	
英ポンド	142	144	146	147	149	147	146	146	141	137	138	137
ユーロ	122	126	128	130	131	130	129	129	124	121	121	122
米ドル	111	112	111	111	110	111	111	111	109	109	109	109
ブラジル・レアル	34.6	35.0	34.8	34.4	30.4	29.3	29.3	29.4	28.0	27.6	27.2	-
アルゼンチン・ペソ	7.06	6.74	6.65	6.30	4.70	-	-	-	-	-	-	-

為替感応度

他の条件に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の増加（減少）額

(億円)	FY2018	FY2019
資本	(35.0)	(33.0)
当期利益	(1.0)	(2.0)

期末レート

	FY2018				FY2019				FY2020		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
英ポンド	146	151	152	150	145	148	141	144	137	133	144
ユーロ	128	132	136	132	128	132	127	124	123	118	122
米ドル	112	113	113	106	111	113	111	111	108	108	109
ブラジル・レアル	34.0	35.4	33.9	32.1	28.6	28.2	28.5	28.3	28.3	26.0	27.1
アルゼンチン・ペソ	6.81	6.42	6.03	5.30	3.94	2.84	2.93	2.53	2.53	1.88	1.82

原油価格 (ブレント)

FY2020 見直し 1/バレル = \$63

減価償却費・資本的支出・研究開発費



単位：億円	2019年3月期 4月-12月期	2020年3月期 4月-12月期
減価償却費	210	258
資本的支出（無形資産を含む）		
通常投資	176	172
戦略投資、他	-	289
合計	176	461
研究開発費		
建築用ガラス事業	20	20
自動車用ガラス事業	24	19
高機能ガラス事業	6	7
その他	22	23
合計	72	69

NSG
GROUP